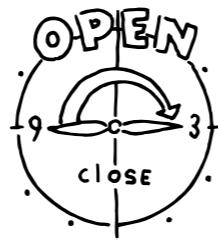


午後3時以降、 銀行員は何をしているの?



A ひとことアンサー

その日に受付けた振込や現金の処理、
手形・小切手の処理などの業務を行っています。



午後3時以降の銀行をのぞいてみると…。

まず最初に行っているのは、残された伝票の処理です。具体的には、3時直前に持ち込まれた振込の伝票とか、外回りの担当者が集金してきたお金の入金処理といった仕事。そして、その日の伝票処理がすべて終わると、次にその日に受付けたすべての伝票内容(お客さまからの依頼内容)と、実際の処理内容(コンピュータに入力した内容)に間違いがないかを再確認します。同時に、現金に過不足がないかも確認します。

こうした勘定を合わせる仕事のほかに、現金を輸送する準備もします。現金は、翌日に必要な額だけを残して、それ以外は本店や現金の足りない支店などに送るわけです。輸送するのは現金だけではなく、手形・小切手の輸送も大切な仕事。というのも、銀行に持ち込まれた手形・小切手は、支払いを受けるために振出人の取引銀行に渡さなければなりません。ただし、いろいろな支払銀行に直接行ったのでは大変なので、銀行は毎日、手形交換所に持ち寄って、相互に交換しています。

現金や手形の処理が終わると、重要な書類の確認です。通帳や手形・小切手用紙は、紛失して悪用されると大変なので、明細を記録して在庫を確認します。

それが終わると、現金や重要書類を金庫室に保管します。その日受付けた伝票や書類もお客さまのプライバシーにかかわるものですから、金庫室に厳重に保管されます。

金庫室の扉をしめたら、簡単な掃除や翌日の営業の準備をします。そして、机やキャビネットにき

ちり鍵をかけたところで、銀行員の1日の業務がやっと終了するというわけです。

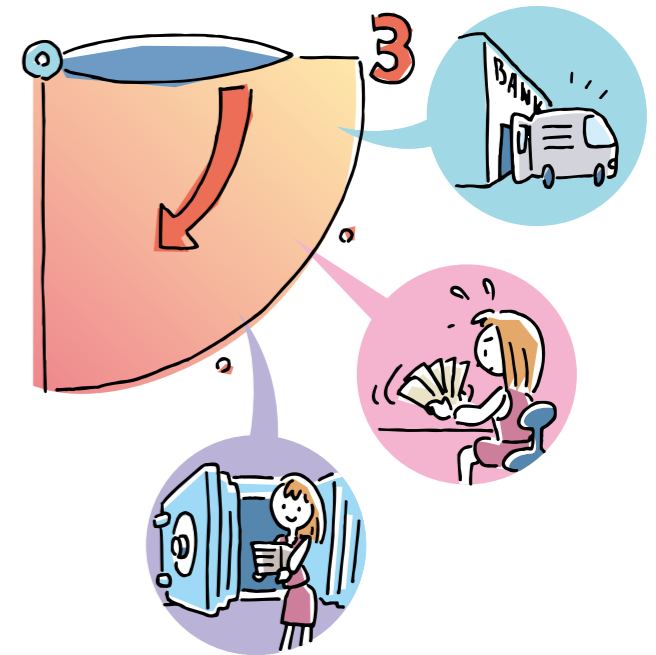


銀行の営業時間

第十六条 銀行の営業時間は、午前九時から午後三時までとする。

2 前項の営業時間は、営業の都合により延長することができる。

銀行法(施行規則)より抜粋



「銀行」という名前の由来

「銀行」という言葉が日本に登場したのは明治5年。アメリカのナショナル・バンクの制度にならって「国立銀行条例」(銀行法の前身)を制定したときが初めてです。

バンク(BANK)は、銀行の起源といわれている両替商がお金を数えるために置いた机(イタリア語でBanco)に由来するといわれていますが、これを日本語に訳す際、いろいろな議論があったようです。このころすでに、両替や為替の仕事を扱う両替商は栄えていましたが、バンクの日本語として「両替屋」ではしっくりこない。では、ど

うしたら良いか…。

いろいろ相談した結果、中国語で「商店」とか「市場」という意味のある“行”という字を用いることになり、ただ「金行」というのも変なので、「銀行」に落ち着いたといわれています。

また「銀行」という言葉は、もともと中国で使われていた、という説もあります。中国で銀行という言葉が使われ始めたのはアヘン戦争以降で、当時は金貨よりも銀貨が広く流通していたので銀行と呼ぶようになったといわれています。